



あげしお

令和5年6月6日

鷹南学園

三鷹市立第五中学校

校長 鶴崎 靖二

◇学校教育目標◇

- ・進んで考える人
- ・情操豊かな人
- ・心身ともに健康な人

～「あげしお」物事の勢いが盛んになることを意味し、生徒が勢いよく活躍するという思いを込めて～

ホームページ <http://www.mitaka-schools.jp/gochu-jhs/>

「誰かを想い、何をすべきかを考え、 想像することで、人は成長していく」

校長 鶴崎 靖二



学校HPリンク



『おとなになるのび太たちへ』
(まんが 藤子・F・不二雄 発行 小学館)

『おとなになるのび太たちへ』(まんが 藤子・F・不二雄 発行 小学館)という本を読みました。夢をかなえた10人の大人たちが、まんが『ドラえもん』のお気に入りの1話を推薦して、そのまんがを通じて子ども達に伝えたいこと、色んな想いをエッセイとして添えた本です。

君たちは『ドラえもん』をテレビや映画などを観たことがある人は多いと思いますが、もしかしたら、原作漫画『ドラえもん』は読んだことがないという人が多いかもしれませんね。実は私も、全部は読んだことはありませんでした。

私は、「10人の大人たち」が選んだ漫画とエッセイを一通り読み、昔『ドラえもん』を読んだ時の記憶が鮮明に蘇り、改めて学びがある漫画だったなあという想いを感じました。中でも、一番ぐっと来たのが「さようなら、ドラえもん」(てんとう虫コミックス6巻)です。

この物語には、梶 裕貴氏(声優)がエッセイを添えています、私なりの感想を巻頭文に綴ります。

「さようなら、ドラえもん」は、ドラえもんが未来の世界へ帰っていくお話です。家族同然に過ごし、なんでもドラえもんに甘えていたのび太君。でも、ドラえもんが未来へ安心して帰ることができるように、自分一人で頑張っていこうとする姿を描いています。

ジャイアンとのけんかで、ドラえもんの力を借りずに立ち向かい、ボコボコにされるのび太君。でも、何度倒されてもしぶとく立ち上がり、とうとうジャイアンが音を上げてギブアップ。ドラえもんの背中におぶさって家に帰る時、のび太君は、ドラえもんにこう言います。「見たろ、ドラえもん。勝ったんだよ。ぼく一人で。もう安心して帰れるだろ、ドラえもん」という。そして翌朝ドラえもんがいなくなった部屋を見渡して「ドラえもん。君が帰ったら部屋ががらんとしちゃったよ。でも・・・すぐになれると思う。だから・・・心配するなよ、ドラえもん」とつぶやく。でも「・・・」。だから「・・・」には、でも(さみしくないよ)、だから(大丈夫だよ)という言葉が入るのでしょね。(私の想像)

旅立つ友に後顧の憂いを断ち、心配をかけたくないという気持ちが、のび太君を自立に向けて一步成長させたのでしょ。のび太君のドラえもんに対する感謝の気持ち、友を思う気持ちにほっこりすると共に、寂しさを感じる一話でした。出会いと別れは、人の心を大きく成長させるきっかけになります。

ドラえもんを想い、自分が何をすべきかを考え、どうあるべきかを想像したことで、のび太が一步成長できた。せつなくも優しい気持ちになるお話の紹介でした。

ちょうど1年前の学校だよりで書いた「自立は、依存先を増やすこと」の話とは、真逆で矛盾するような話に聞こえるかもしれない今回の巻頭文になりました。私にとっては、どちらも正解。どちらも正しいと思っています。ドラえもんに甘えていたのび太君が、「自分の力で頑張らなくちゃ」という気持ちも称えたいし、一方で支援の手を求めることは恥ずかしいことではなく、依存先を増やすことは、共生社会に必要なものなのだと思います。ここでは「甘え」と「依存」をどう捉えるかということですね。

いろいろな見聞・体験・議論に触れて、その時、その都度に自分の心が動いて感じたこと。「なるほどな」と思った経験は宝物です。このような経験を重ねていくことで、心は耕され、人格は作られていくものだと思います。五中のこどもたちにも、多様な価値観に触れ、感じながら、成長してほしいと願っています。